

予 算 要 求 資 料

令和 3 年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

事業名 学校花壇コンクール（F B C）推進費

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

農政部 農産園芸課 花き係 電話番号：058-272-1111（内 2873）

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 350 千円（前年度予算額：350 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	350	0	0	0	0	0	0	0	350
要求額	350	0	0	0	0	0	0	0	350
決定額									

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

- ・学校花壇コンクール（以後、F B C という）は、昭和 40 年に本県で開催された岐阜国体を盛り上げるために、昭和 39 年に行われた花でかざる運動をきっかけとして、岐阜県から始まった。
- ・現在、F B C は関係 7 県 1 市（愛知県、岐阜県、三重県、福井県、静岡県、滋賀県、長野県、名古屋市及び左記の各教育委員会）及び中日新聞社（事務局）で構成される「F B C 実行委員会」により実施されている。
- ・岐阜県では S39 年から令和 2 年までで延べ 5,554 校が参加している。
- ・企業からの協賛金の減額等に伴い、平成 27 年度以降は規模を縮小して実施することとなった。

（2）事業内容

県内の小・中学校等に草花種子を無償配布し、この種子をもとに育てた花苗を用いて学校独自で制作した花壇を審査し、優秀な学校を表彰する。

学校花壇コンクールを実施することで、学校環境の美化や豊かな情操教育に資するとともに、子どもの頃から花に親しむ機会を創出し、将来的な花き消費の拡大につなげる。

- ・学校花壇コンクール：1回（4月～10月）
- ・研修会：1回（5月）
- ・表彰式：1回（11月）
- ・付帯事業：校外花壇コンクール、指導者講習会等

（3）県負担・補助率の考え方

FBCを通し、子供の頃から花に親しむことは将来的な花き消費拡大を図る重要な取り組みであるため、県負担を支出することは妥当である。

（4）類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
負担金	350	学校花壇コンクールやそれに伴う表彰式等の実施
合計	350	

決定額の考え方

事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
花きの消費が低迷するなか、将来的な花きの消費拡大を図るため、教育委員会と連携し、参加校の拡大を目指す。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
F B C 参加校数	66 校 (H26)	75 校 (H30)	70 校 (H31)	60 校 (R2)	75 校 (R3)	80.0%
	()	()	()	()	()	%

○指標を設定することができない場合の理由

(前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 - (1) 学校花壇コンクールの実施
 - 期 間 令和2年4月～令和2年5月
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、6月1日に令和2年度コンクールの中止が決定した。
 - 参加校数 60校
 - (2) 研修会の実施 令和2年5月26日 書面開催（参加校へ資料配布）

(前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 - ・令和2年度コンクールは中止となったが、各参加校で継続して花壇づくりが行われ、参加した児童生徒の花への関心が高まるとともに、道徳的な意識や価値観が養われるなど一定の事業効果が得られた。
 - ・地域花壇づくりによる環境美化、公共施設や高齢者世帯への花の贈呈などによる地域社会の快適な環境づくりにも貢献している。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	花き消費が低迷するなか、花育の推進による将来的な花き消費拡大を図る重要な取り組みであり、学校や地域における花き文化の普及・継承に繋がっているため、継続的に事業を実施することが必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	コンクールの実施を通して、参加する児童生徒をはじめ、保護者や地域住民の花きへの関心を高めることができている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	実施内容を精査し、必要最小限の運営に努めている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>参加校は昭和 61 年をピークに減少を続けたが、国体を契機に参加校の拡大を図ったことで平成 24 年度は 138 校まで増加した。国体終了後は再び減少傾向にあるため、教育委員会と連携し、新規参加校の掘り起しをする必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>花育の推進による将来的な花き消費拡大を図る重要な取り組みであり、業界内での花育に対する期待も大きいため、継続的に事業を実施することが必要である。</p>
--

他事業と組み合わせる場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	